

ピーマン（ピクシー）の生産量確保（令和3～6年）

推進事項：整枝技術向上による花止まりの回避

（普及対象：旭川市青果物生産出荷協議会ピーマン部会東旭川支部13戸）

課題の背景

- ・高齢化に伴い栽培戸数・面積が減少し、販売力維持には生産量確保が必要
- ・安定した収量を確保できていない生産者が多い（図1）
- ・高い技術を持つ高齢者がいる反面、その家族や雇用労働者は整枝の判断が難しく、作業を担いづらい



地域内の技術継承と、新規作付の推進や、家族・雇用労働力の活用による栽培面積の維持・拡大が求められている

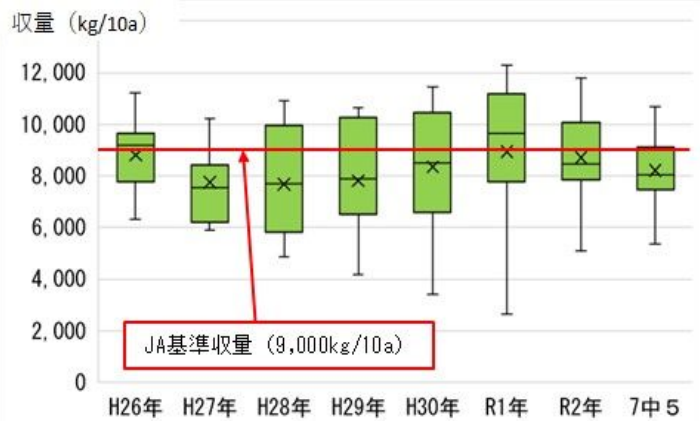


図1. JA東旭川 ピーマン10a当たり収量の推移

活動の経過と到達目標

令和2年の予備調査と取り組み

- (1) 高収量ほ場：主枝優先の草姿（写真1）で、7月中旬の草勢（開花位置から生長点の長さ）が確保（表1）
- (2) 低収量ほ場：懐枝の繁茂、主枝の花止まり（写真2）垂れ枝（写真3）などが見られ、草勢が低下

- (3) 初期地温のほ場間差の提示による定植床準備前進化の呼びかけ

令和3年の主な活動

- (1) イラストを活用した整枝マニュアル（図2）による第3分枝摘除、側枝2節摘心、切り戻しなどの整枝技術の指導
- (2) FAX情報（図3）を活用した生育調査結果の共有と、タイムリーな個別の情報提供、巡回指導
- (3) 草勢回復のため、側枝の整理、高温時のかん水を指導

到達目標

- (1) 7月中旬の開花位置から生長点間の長さ5cm以上確保

達成戸数 基準（令和2）年：5戸 目標：7戸

- (2) 9,000kg/10a以上の収量確保

達成戸数 基準（7中5）年：3戸 目標：7戸

表1. 開花位置から生長点の長さ（令和2年）

開花-生長点間長 (cm)			収量 (kg/10a)
5月下旬	6月下旬	7月中旬	
12	3	7	11,789
12	4	摘心	11,185
16	2	摘心	10,954
11	5	5	9,170
8	5	4	9,131
16	4	8	9,092
16	5	2	8,466
12	5	3	8,359
-	7	2	8,032
14		2	8,022
6	7	2	7,669
-	8	3	6,231
8	5	4	5,094



写真1. 高収量ほ場の草姿



写真2. 低収例：花止まり



写真3. 低収例：垂れ枝

旭川市ピーマン整枝マニュアル (R3年第1版) ~第3分枝以降の整枝と収穫後の切り戻し~

先日行いました生育調査の結果をお知らせします

○6月の晴天高直で、収穫は昨年より前速傾向です。生育に合わせて、追肥、かん水の頻度も増やしましょう

○分枝先端に付いた葉天も同様に肥太が遅れますので、2~3果収穫し、1果残して切り戻しを行います

○枝の整理に遅れてきた枝も同様に肥太が遅れますので、2~3果収穫し、1果残して切り戻しを行います

○枝の整理が遅れてきた枝は、葉が多く見えても肥太が遅く、株全体の生育を妨げますのでしっかりと切り戻しを行います。

○ハタチ、アブラムシ、ヨトウガの発生が始まっています。生長点付近に発生するモモアカアブラムシがやや多い傾向です。両三タイムリー検査を必要に応じて実施し、防除を行います

共通する時期別の注意点、病害虫の発生状況を情報提供

部会内・JAで生育調査結果を共有

調査日	草丈 (cm)		葉係		分枝数		開花分枝 (分枝)		収穫量 (kg/10a)
	R3	R2	R3	R2	R3	R2	R3	R2	
A 6/30	6/24	98	111	-	19	16.6	15	13.4	12.0
B 6/28	6/25	116	108	19	20	18.6	16	15.6	13.8
C 6/30	6/25	121	116	19	20	19.2	16	16.6	14.4
D 6/28	6/24	107	101	20	18	16.8	14	13.6	11.2
E 6/28	6/24	112	113	20	16	16.6	14	14	12.0
F 6/28	7/1	106	96	17	21	15.2	15	11.8	12.0
G 6/22	6/25	122	103	19	21	16	15	12.2	12.0
H 6/29	6/29	103	103	17	18	16.4	15	13.2	12.2
I 6/29	6/25	105	105	-	12	18.8	15	16.2	12.2
J 6/29	6/25	134	112	-	20	17.6	16	14.6	14.0
K 6/29	6/24	114	96	17	15	16.4	14	14	11.6
L 6/29	6/24	103	91	17	17	16.4	12	11	9.4
M 6/29	6/25	116	107	20	20	17.6	15	14.8	13.4

個別のコメントを記載して送信

図2. イラストを活用した整枝マニュアル

図3. FAX情報

活動の成果

(1) 7月中旬の開花位置から生長点の長さ5 cm以上確保
達成戸数 1戸 (到達度合 14%) (図4)

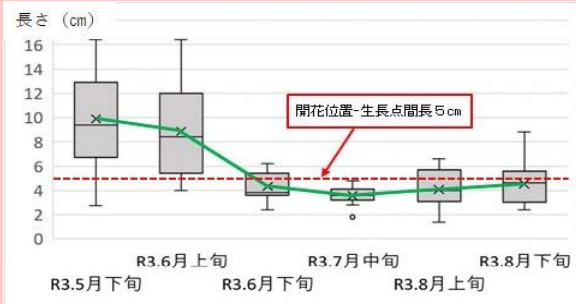


図4. 開花位置から生長点の長さ (令和3年)

(2) 9,000kg/10a以上の収量確保
達成戸数 8戸 (到達度合114%) (図5)

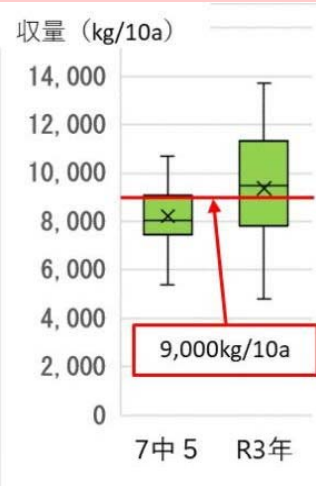


図5. 令和3年収量

考察

- (1) 整枝技術の改善は進んだが、気温の変動が大きく、着果が集中したため、7月中旬の草勢は弱まった (図6)
- (2) 第3分枝摘除や側枝整理の改善により草姿が整い、高温時に合わせたかん水量や追肥の指導で草勢が回復した
- (3) 草勢回復のための技術実施と後半の高温で収量の不足が補われた

今後の取り組み

優良事例の栽培管理技術を引き続き整理し、安定した収量確保を支援する

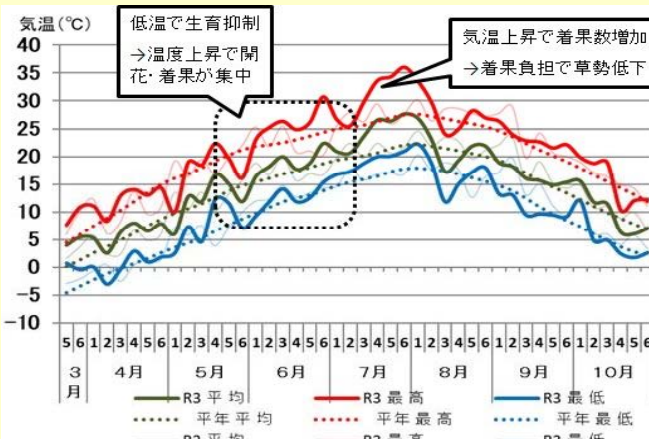


図6. 旭川市の気温推移影響 (令和3年)